

東京 2020 ライブサイト等基本計画

平成 3 1 年 4 月 1 1 日

東京都 オリンピック・パラリンピック準備局
公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

1 検討経過

- 東京 2020 大会期間中、世界中から訪れる観戦客等が、競技チケットの有無にかかわらず、誰でもライブ中継を通じて競技観戦を楽しみ、大会の感動と興奮を共有できるような会場を、都と組織委員会が共同して、都内及び被災地に設置することは、大会の成功のために不可欠である。
- その実施にあたっては、長期間利用可能な広さを持つ都内公共空間の活用が必要であることから、まず都が昨年 4 月に「東京 2020 大会期間中のライブサイトに関する開催都市東京の考え方」を公表し、都内の 8 候補地について、それぞれの実施可否や規模等を、その立地特性等に照らして個別に検証する方針を明らかにした。
- その後、都と組織委員会は、各候補地について、現地調査や施設管理者等関係者との協議を行いながら、セキュリティ、輸送、来場者動線や暑さ対策等諸課題について幅広く検討し、実現可能性の検証を行った。
- 特に、各会場の特性に応じた適切なセキュリティ対策に万全を期すとともに、大規模なライブサイトは数を絞る等、安全・安心なライブサイトの運営に向けた検討を進めた。
- その結果、都内については、国内はもとより、世界中からの多数の観戦客等を迎える広域的な受け皿として、8つの候補地すべてを活用する一方で、各会場特有の状況を踏まえて、東京 2020 ライブサイトのほか、都のパブリックビューイングを核とする盛り上げ会場や組織委員会が中心となって展開する盛り上げエリアの実施形態を新たに設定する等、実施運営にメリハリをつけることとした。また、被災地については、各県との協議を踏まえ、観戦客等が集まりやすい会場を選定した。
- さらに、検討の過程で、都内全体の盛り上げのためには、多摩地域で競技中継を楽しめる会場の拡充が必要であることから、都のパブリックビューイングを核に、地域の様々な主体と連携して盛り上げる会場として、オリンピック期間は「首都大学東京 南大沢キャンパス周辺」、パラリンピック期間は「調布駅前広場周辺」を追加した。
- 今後、都と組織委員会は、「東京 2020 ライブサイト等基本計画」に基づき、実施に向けた準備を着実に進める。

2 会場の概要

各会場の特性を踏まえて整理した大会時の盛り上げ会場の全体概要は下記のとおりである。大会時の各会場の呼称については、都民や来訪者にわかりやすいものを今後検討する。

①	東京 2020 ライブサイト	区部拠点会場	都立代々木公園
		多摩拠点会場	都立井の頭恩賜公園
②	ターミナル駅周辺 東京 2020 ライブサイト		<ul style="list-style-type: none"> ・高輪ゲートウェイ駅前用地 (東日本旅客鉄道株式会社との連携事業) ・池袋西口公園 ・東京都庁舎
③	都のパブリックビューイングを核とする盛り上げ会場	区部拠点会場	<ul style="list-style-type: none"> ・都立日比谷公園 ・都立上野恩賜公園
		多摩拠点会場	(オ) 首都大学東京 南大沢キャンパス周辺 (パ) 調布駅前広場周辺
④	組織委員会が中心となって展開する盛り上げエリア		臨海部 (青海・有明地区等)
⑤	被災地 東京 2020 ライブサイト		<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県会場 (オ) 盛岡城跡公園 多目的広場 (パ) JR盛岡駅前 滝の広場 ・宮城県会場 勾当台公園 ・福島県会場 (オ) 鶴ヶ城公園 (パ) アクアマリンパーク ・熊本県会場 熊本城ホール

2-① 東京 2020 ライブサイト (都と組織委員会共催)

都民のみならず、国内外から訪れる観戦客等を広く受け入れる広域的で大規模なライブサイトとして、区部と多摩に拠点会場を設ける。

(1) 主な実施内容

- ・来訪者が大会の臨場感や会場での一体感を味わえるよう、大型ビジョンによる迫力ある映像で競技中継を実施する。
- ・国際競技団体や国内競技団体等と連携し、オリンピック・パラリンピック競技体験を実施する。
- ・文化プログラムとの連携や、多様な団体の参画により、大会の祝祭感を演出するとともに、開催都市東京及び日本の魅力を発信するステージイベントを実施する。
- ・大会パートナーの協力による各種催しや出展等により、実施内容の充実と会場の盛り上げを図る。
- ・会場内で飲食が楽しめるようにするとともに、休憩スペースの設置や暑さ対策等の実施により、来場者が快適に過ごせる会場づくりを行う。
- ・来場者に安全・安心な会場で楽しんでいただくため、適切な警備を実施する。

(2) 区部拠点会場

- ・都立代々木公園（A地区）

1964年大会のレガシーであり、若者や外国人観光客が多く集まる地域に位置する緑豊かな都立公園。東京2020大会の競技会場の一つである国立代々木競技場に隣接。

都内に整備する最大のライブサイト会場として、競技中継や競技体験に加え、大会パートナーの出展を誘致し、大会の興奮や感動を味わえる場所とする。

(3) 多摩拠点会場

- ・都立井の頭恩賜公園（西園）

豊かな緑と水に象徴される、自然あふれる都立公園。多様な人々が訪れる憩いの場としての地の利を活かし、子供達やファミリー層も安全・快適に大会を楽しめる、多摩地域の拠点ライブサイト会場として整備する。

2-② ターミナル駅周辺 東京2020ライブサイト（都と組織委員会共催）

都内外からアクセスしやすく、利便性が高いターミナル駅周辺に会場を設け、世界中から訪れる観戦客等を受け入れる。また、大会パートナーとの連携や既存施設の活用により、効果的に大会の盛り上げを図る。

(1) 主な実施内容

2-①の(1)に記載する実施内容のうち、各会場の規模・立地条件等に応じた対応を行う。

(2) 高輪ゲートウェイ駅前用地

2020 年春に J R 田町駅と品川駅の間に開業する予定の高輪ゲートウェイ駅前の用地を活用してライブサイトを実施する。国内外の玄関口である羽田空港や品川駅に近く、世界中からの来訪者の利便性が高い場所で、大会パートナーである東日本旅客鉄道株式会社の協力を得ながら、駅前の好立地を生かした効果的な会場運営を行う。

(3) 池袋西口公園（東京芸術劇場前）

2019 年秋にリニューアルし、池袋駅西口の新たな賑わい拠点として期待される場所を活用し、ライブサイトを実施する。首都圏の鉄道が複数乗り入れるターミナル駅に至近、また東京芸術劇場に隣接という好立地を生かしつつ、施設所有者である豊島区と連携して区の施設を効果的に活用しながら、競技中継やステージイベント等を実施する。

(4) 東京都庁舎

日本一の乗降客数があるターミナル駅に近い立地と開催都市東京の象徴である東京都庁舎を活用してライブサイトを実施する。暑さ対策のため、屋内のホール等を活用し、快適な環境で競技のライブ中継を楽しめるようにするほか、大会の展示コーナー等も効果的に活用する。

2-③ 都のパブリックビューイングを核とする盛り上げ会場

(1) 位置づけ

- ・東京 2020 大会を契機に、都や組織委員会だけでなく、様々な主体が、多様な文化や食等東京及び日本の魅力発信や観光 P R 等に取り組み、ともに東京 2020 大会を盛り上げていくことは重要である。
- ・こうした取組を促進していくため、都は、区部の拠点会場として、都市機能が高次に集積する都心のオアシスである都立日比谷公園と、多様な文化施設が集積する国内随一の文化の拠点である都立上野恩賜公園を、多様な団体による発信の場として有効に活用していく。
- ・また、多摩の拠点会場についても、地元の多様な主体と連携し、多摩地域の魅力発信につなげていく。
- ・これらの会場では、都は競技のライブ中継を楽しめるようにするとともに、様々な団体や地元等の出展やイベント等と連携しながら、パブリックビューイングを核とする全体的な盛り上げを創出できるよう取り組む。

(2) 都立日比谷公園

公園内にライブサイトのエリアを区切って実施するのではなく、公園全体を活

用した広域の盛り上げ会場を目指す。

小音楽堂を利用して都が競技中継のパブリックビューイングを行うほか、大会に参加する各国のPRハウスや東京の産品PR、各種イベント等と連携する。

公園内や周辺については、大会のシティドレッシングや大規模展示物の設置等により、大会の祝祭感を演出する。

東京国際フォーラムや皇居外苑等競技会場とも連動し、日比谷公園全体が盛り上げ会場となるよう取組を進める。

(3) 都立上野恩賜公園

公園内にライブサイトのエリアを区切って実施するのではなく、公園全体を活用した広域の盛り上げ会場を目指す。

竹の台広場で都が競技中継のパブリックビューイングを行うほか、ともに大会を盛り上げる多様な団体や地元等の出展やイベント等と連携する。

公園内や周辺については、大会のシティドレッシングや大規模展示物の設置等により、大会の祝祭感を演出する。

東京都美術館をはじめとする文化施設等の集積を生かしつつ、文化の発信を中心とした盛り上げ会場となるよう取組を進める。

(4) 首都大学東京 南大沢キャンパス周辺・調布駅前広場周辺

地域住民や多摩地域を訪れる多くの方々に競技中継を楽しんでいただくとともに、多摩地域の魅力発信につながるような盛り上げ会場を目指す。

オリンピック期間は、既存施設を活用した屋内外での実施が可能であり、大学や大会パートナーとの連携の可能性がある「首都大学東京 南大沢キャンパス周辺」を会場とする。また、パラリンピック期間は、車いすを含む障害者の来場が増えると見込まれることから、駅から至近のアクセスの良さとコンパクトな会場づくりが可能な「調布駅前広場周辺」を会場とし、都が競技中継のパブリックビューイングを行うほか、ともに大会を盛り上げる多様な団体や地元等と連携する。

2-④ 組織委員会が中心となって展開する盛り上げエリア

(1) 位置づけ

- ・臨海部（青海・有明地区等）は、アーバンスポーツをはじめとする多くの競技会場が集積する特別な場所であり、オリンピックパークがない東京2020大会ならではの新しい取組により、大会の象徴的なエリアとして盛り上げを図る。

(2) 検討の方向性

- ・臨海部は、複数の競技会場が集積することから、輸送やセキュリティ等大会運営に特別な配慮が必要なエリアである。

- ・また、大会パートナーによるショーケーシング（パビリオン出展等）も大規模に展開される。
- ・こうした地域特性を踏まえたきめ細かい調整を進めながら、青海から有明までの広範な盛り上げを図る必要がある。
- ・また、都や大会パートナーに加え、地元等の協力も得ながら、臨海部全体の盛り上げを目指すことが重要であり、組織委員会を中心に、来訪者がオリンピック・パラリンピックの雰囲気を感じられる特別な盛り上げエリアとして、今後詳細な検討を進めていく。

2-⑤ 被災地 東京 2020 ライブサイト（都と組織委員会共催）

東北三県及び熊本県の下記会場において、ライブサイトを実施する。

2-①の（1）に記載する実施内容のうち、各会場の規模・立地条件等に応じた対応を行う。

- （1）岩手県 オリンピック期間：盛岡城跡公園 多目的広場
 パラリンピック期間：JR盛岡駅前 滝の広場
- （2）宮城県 勾当台公園
- （3）福島県 オリンピック期間：鶴ヶ城公園
 パラリンピック期間：アクアマリンパーク
- （4）熊本県 熊本城ホール

3 開催期間及び時間

（1）開催期間

- ・東京 2020 ライブサイトの区部・多摩拠点会場については、
オリンピック期間（2020年7月24日（金）～8月9日（日）合計17日間）
パラリンピック期間（2020年8月25日（火）～9月6日（日）合計13日間）
を基本に実施する。
- ・その他の会場の詳細な開催期間は、今後検討・調整する。

（2）開催時間

競技が多く実施される時間帯（午前10時から午後9時頃）を中心に、会場の特性等に合わせて今後検討・調整する。

4 来場者想定

- 都内会場について、会場の有効面積や実施内容、立地特性、入場ゲートの手荷物検査等の処理能力等の要素を踏まえ、オリンピック・パラリンピック期間中、1日あたり95,000人以上、総計で285万人程度の来場を想定している。
- 被災地会場の来場者数については、今後、各会場のゾーニング等の検討・調整にあわせて想定し、適切に準備を進める。

会 場		1日あたり来場者想定数(人)
2-①	都立代々木公園	35,000
	都立井の頭恩賜公園	20,000
2-②	高輪ゲートウェイ駅前用地	14,000
	池袋西口公園	5,000
	東京都庁舎	2,000
2-③	都立日比谷公園(※)	6,000
	都立上野恩賜公園(※)	8,000
	首都大学東京 南大沢キャンパス周辺・調布駅前広場周辺	5,000
2-④	臨海部(青海・有明地区等)	(未定)

※ 都立日比谷公園、都立上野恩賜公園の来場者想定数は、大会期間中の公園来場者数ではなく、公園内の競技中継の観覧者の想定数

5 実施にあたっての留意点

(1) セキュリティ計画

- ・来場者が会場内で安全・安心に過ごすことができるよう、主催者による自主警備(民間警備員による警備)を基本とし、地元警察等、関係機関と十分に連携する。
- ・会場の立地や実施内容等の特性に応じて、セキュリティフェンスの設置や来場者の手荷物検査等適切な警備を実施する。

(2) 暑さ対策

- ・高温多湿の気候のもと、屋外でライブサイト等を楽しむためには暑さ対策が不可欠であることから、大型ビジョン前の観客席に日除けテントやミストを設置する等、ハード面の対策を行う。
- ・また、来場者への暑熱対策グッズの配布、スタッフや場内アナウンスによる水分補給の呼びかけを行う。開催時間中、熱中症指数計で暑さ指数(WBGT)を

確認し、WBGT の数値により、一部コンテンツを中断する等のソフト対策もあわせて実施する。

(3) アクセシビリティ対応

- ・誰もが安全にライブサイト等会場に来場し快適に楽しんでもらえるよう、会場内にはアクセシビリティに配慮したルートやエリアを設定する。
- ・また、来場者が必要な情報を得ることができるよう、Wi-Fiを整備する。

(4) 多言語対応

- ・外国人観光客にも楽しんでもらえるよう、通訳スタッフを配置し、各種案内を行う。
- ・翻訳機器を使用した、多言語対応の実施を検討する。

(5) 荒天時対応

- ・気象情報を確認し、事前の実施判断や随時の中止判断を行う等の対策を実施する。
- ・集中豪雨や落雷の恐れがある場合等、来場者に危険がおよぶ可能性がある際は、ライブサイト等の一時中断とともに、速やかな避難誘導を行う。

(6) 医療体制

- ・各会場に看護師等を配置し、適切な応急処置が実施できる体制を検討する。
- ・状況に応じ、救急対応ができるよう、東京消防庁や各医療機関と連携する。

(7) ボランティア

- ・都市ボランティアの方々に、来場者の案内や競技体験の補助等、ライブサイト等の運営にご協力いただく。

(8) 受動喫煙対策

- ・競技会場に準じ、ライブサイト等の会場は完全禁煙の方向で検討する。

(9) 環境配慮の取組

- ・ライブサイト等会場のワンウェイプラスチック対策については、事業者などから情報収集を行いながら、飲食提供におけるプラスチック製ストローの不使用、プラスチックではない食器類の使用やリサイクル等について、衛生面への配慮や費用対効果等を踏まえて幅広く検討する。また、耐久性などの観点から、プラスチックを使用せざるを得ない会場内の案内表示や装飾物等については、再生プラスチックの利用やリサイクルについて検討する。

(10) 大会の祝祭感醸成

- ・オリンピック・パラリンピックシンボルや大会マスコット像の設置により、大会の記念となるフォトスポットづくりや、公式ライセンス商品の販売等、来場者が東京 2020 大会の雰囲気を楽しむことができるような取組を行う。

(11) 区市町村が実施する取組への都の支援

- ・各自治体等を対象とした東京 2020 大会のコミュニティライブサイト・パブリックビューイングの枠組みについて、組織委員会が「東京 2020 大会 コミュニティライブサイトガイドライン」を公表した。
- ・都は、都内全体の盛り上げを図るため、地域のコミュニティライブサイトやパブリックビューイングの実施に向けた区市町村の取組に対し、補助制度による支援のほか、適切な情報提供や各種相談対応等を行う。